

気になる国を見つけたらさあ旅に出よう!

**東南アジアに
出かけよう!**

バスポートが準備できたら、飛行機や宿を予約。他にもビザや海外旅行保険、持ち物も揃えながら、旅を楽しむために情報をさらに集めてきましょう。

旅のプランニングをしよう

航空券 大手航空会社やLCCなど、予算や行先に応じてフライトを選び、旅を楽しみましょう。東南アジアではそれぞれの国が近距離に位置するので、境内でトランジットをすることで一度の旅行で気軽に複数の国を訪れる事ができます。シンガポール、クアラルンプール（マレーシア）、バンコク（タイ）などの主要なハブ空港を利用することでフライトの選択肢も多くなり便利です。

宿泊 東南アジアには、多様なスタイルの宿泊施設があります。各地にある上質のビーチリゾートをはじめ、熱帯雨林や自然保護区のエコロジー、水上コテージなども東南アジアならでは。また、歴史建築や、深い歴史を感じることができます。ホームステイをして現地の人と触れ合えることも思い出に残る旅になります。

食事 東南アジアの食体験は、気楽な屋台から、世界的アワードを受賞するガストロノミまで、幅広く楽しめます。行列ができる屋台や予約必須のレストランも多く、事前のリサーチをおすすめします。調理法や食材は非常に富み、新鮮な地元食材を使った風味豊かな料理が魅力です。アジア料理にとどまらず、さまざまな国やジャンルの食事が楽しめます。

渡航前にCheck!

ビザが必要な国があります。
カンボジア、インドネシア、ミャンマーへの入国には旅行者でもビザが必要です（*2024年3月時点）。各国によって規定が異なるので、事前に該当する国の公式ウェブサイトや大使館・領事館にて最新の情報を必ず確認してください。

インターネットとスマートフォン
旅先でもインターネット環境は欠かせません。地図やお店の口コミの確認をするのに便利なのはもちろんですが、配車アプリなどを利用すれば行動範囲も広がります。また近年は入出国カードやWiFiを準備してスムーズな旅をしましょう。

バスポートの残存有効期間を確認!
必要なバスポートの残存有効期間は国によって異なります。基本的に「現地を出国時に6か月以上」が残っていると安心です。旅行の予約をする前に、必ずバスポートの残存有効期間を確認して、必要に応じて申請をしてください。

**ASEANへの
やさしい旅**

東南アジアには、多様な文化や宗教が存在し、多くのフェスティバルやイベントが開催されます。歴史的なものから現代的なものまで、どれも活気に溢れています。祝日は施設の営業情報が異なることもありますので、あわせてチェックしましょう。

**What's Up in ASEAN
東南アジア、いつ行く？**

東南アジアには、多くのフェスティバルやイベントが開催されます。歴史的なものから現代的なものまで、どれも活気に溢れます。祝日は施設の営業情報が異なることもありますので、あわせてチェックしましょう。

1月 シンガポールフェスティバル
2月 春節
3月 ニューイヤー
4月 ピーマイオラ
5月 ピアアートフェスティバル
6月 ピアアートフェスティバル
7月 ピーターコーン
8月 カヤヤン祭り
9月 中秋節
10月 ディババ
11月 カンチャナブリ水祭り
12月 クリストマス

SDGsな旅

SDGs（持続可能な開発目標）に基づいた旅行は、地域社会や環境にポジティブな影響を与えることを目指した旅行のこと指します。

地元の経済を支援する
地元の小売業者やレストラン、宿泊施設などを利用することで、地域経済に貢献します。ローカルで生産された食事を楽しんだり、伝統工芸品を土産として購入することも直接のサポートになります。

文化と伝統を尊重する
現地の文化や伝統を尊重し、地元の習慣に適応することも重要です。その他のSDGsに関する情報を学び、他の人に啓発することもできます。旅行者たる人として、現地の人々と交流し、彼らから学ぶことも大切です。旅行者たる人として、現地の人々と交流し、彼らから学ぶことも大切です。

地域の社会的課題に關注を持つ
現地の社会的課題やニーズに關注することも重要です。SDGsに取り組みをより深められます。アーティстыがもたらす自然・動物への影響を気に留めるなど、様々な取り組みが行われます。

教育と啓発
SDGsに関する情報を学び、他の人に啓発することもできます。旅行者たる人として、現地の人々と交流し、彼らから学ぶことも大切です。

環境への配慮
環境に配慮した旅行をこなすことが最も重要なことです。SDGsに取り組みをより深められます。アーティстыがもたらす自然・動物への影響を気に留めるなど、様々な取り組みが行われます。

レジリエント・ツーリズム
新型コロナウイルス感染症の流行で混乱した社会・観光業も例にならぬダメージをうけました。このような危機に対する復元力を高めるためのプロトコルで、地域毎の伝統や受け継がれてきた知恵といった無形財（文化的財）やリビングヘリテージを体感して、持続可能な旅を活性化させましょう。